

令和7年度 外国人児童生徒等教育充実のための研究協議会 記録

開催日: 令和7年10月20日(月)

会場: 太田市立九合小学校

公開授業の概要

国際教室1及び2(取り出し指導)

2年1組、3年1組、6年1組(入り込み指導) その他全教室も公開

母語の力を活用して 生まれる安心感と 概念の理解促進

九合小ではバイリンガル教員や日本語指導員の支援により、母語の力が活用できる環境にある。

母語で考え、日本語で表現することや、学習言語や抽象的な言葉を日本語と母語の両方で確認する様子が見られた。



「好き」「得意」を生かした 学習活動の設定

都道府県名の漢字を学習する際、絵が好きな児童の実態を生かして、地図にイラストを描き込む活動を設定するなど、好きなこと、できることから学びにつなぐ工夫が見られた。



充実した 日本語指導 学習指導

図や実物、体験、 やさしい日本語を用いた 理解促進

円を細かく分解して並べ替える操作や、おはじきを並べる操作など、視覚化したことを手掛かりにすることで、思考したことを無理なく日本語で表現できるようにしていた。

個々の実態を踏まえた 明確な支援方針

九合小では、在籍学級と国際教室との密な連携が進められている。

入り込み指導の3教室だけでなく、すべての教室において、外国ルーツの児童に対する支援方針が示され、適切な支援が行われていた。



協議会（班別協議）の概要

協議テーマ「日本語指導が必要な児童生徒に対する支援のための校内連携」

公開授業及び九合小の実践発表を聴き、よりよい校内連携に向けて、全参加者による班別協議を行った。

それぞれの地域や学校の取組について共有しつつ、九合小の取組をさらに充実できるような建設的な意見が交わされた。



役割を明確化した
組織的連携

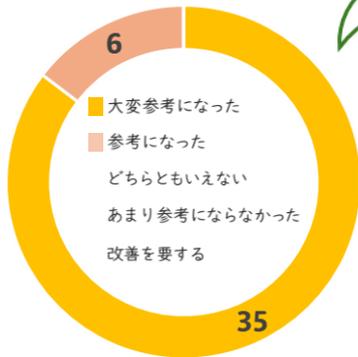
「予定表」による
計画的・継続的な連携

国際教室懇談会など
充実した保護者との連携

プレクラスや
教育研究所との連携

九合小
実践発表の
ポイント

参加者アンケート



- クラスの学習に自力で参加できることを目標にし、**教室が子供達の居場所になっている**九合小の指導支援のあり方が広がっていくことを願っている。
- 九合小の授業を参観し、外国人児童にとって**安全・安心な学習環境が整っている**と感じた。
- 校内連携の方法も、個別のファイル管理と全体の予定表作りなど、それぞれの児童に対応しつつ、見通しを持って全体を俯瞰しながら指導できる体制になっており、驚いた。**今後の日本語指導とその体制作りを生かしていきたい。**
- 授業参観では、外国籍の生徒がどのクラスにも普通に在籍していて、共に学んでいる姿が大変印象的で、これからの理想的な学校生活を描いているように思った。また、**日本語指導担当職員を中心とした学習環境に大変感動した。**
- 校長のリーダーシップのもとに校内体制が整っていて、**各担当者の役割が明確**であり、さらに**週のスケジュールが示されている点は大変優れている。**

まとめ・指導講評の概要

今後、確かな校内連携を一層強化していくために

○適切な情報提供を行う

- ・客観的な日本語能力（DLA等）、学習支援の方法
- ・ケース会議、研修の機会の提供、個別の指導計画の協働編集

○コミュニケーション支援を進める

- ・翻訳ツール、母語支援員など

★学級（教科）担任の役割の明確化がポイント

環境整備、学習指導の工夫、学校生活への適応支援、保護者との連携 など

Q 1 在籍学級担任との連携を誰がどんな方法で取っているのか。

連携の目的は、児童を多面的に支えること。言語の壁だけでなく、児童の心の状態や学校生活全体を支えるために、国際教室担当と学級担任との情報共有を重視している。

国際教室主任が、担任作成の週予定で各クラスの学習内容を確認し、国際教室の支援予定表(週予定)を毎週作っている。教科につながる指導では、各クラスの進捗を確かめながら、学習を進めている。低学年の場合など、学習内容がはっきりしない場合は、授業開始時に迎えに行き、担任に確認してから学習することも多い。

担任との情報交換は、必要に応じて、授業担当者から担任に伝えることが多い。児童の様子で、特に気になったことがある場合は、主に指導担当から伝えている。担任との何気ない会話の中でクラスでの児童の様子や活躍を聞くこともある。そのような情報が、国際教室での児童との会話のきっかけになることも多く、日常的なコミュニケーションによる連携も大切だと考えている。

特に、漢字が書けた、挨拶ができたなど、小さな変化でも共有することで、それが児童へのほめ言葉として還元され、自信につながることになる。

また、全員分を一度に報告することは避け、真に支援の必要な児童に焦点化することで着実な情報共有を進めている。



Q 2 学習記録簿を学級担任とどのような場面で共有しているか。

国際教室では、一人の児童を複数の指導者が担当している。学習記録簿は、主に指導内容の確認や引継ぎのために使っている。

学期末の成績処理など、学級担任から要望があった場合のみ、記録簿を使って報告をしている。学習内容を共有する際は、特に気になることがあった時、口頭やメモで報告することが多い。

Q 3 保護者との連携はどのように進めているか。

多くの保護者も大きな不安の中で生活している。そのため、通信等の配布物や母語を使った学習が少しでもできるよう予定表づくりを工夫するなど、母語を使った支援を大切にしている。

保護者は、日本語指導員に電話や訪問で困り事や悩み事を訴えることが多い。保護者からの連絡はその都度、必ず国際教室の職員同士や担任と共有している。

Q 4 国際教室担当者間の連携はどのように行っているか。

連携が機能するためには、各自の役割がはっきりしていることと情報伝達が大切である。本校では、国際教室担当の打合せを、週1回行っている。勤務日の関係で打合せに参加できない担当者には記録を渡して連携を図っている。

Q 5 学習進度や理解の差のある児童を複数人指導する場合、どのように配慮しているか。

学習進度や理解に差のある児童を指導する場合、事前資料を用意することを大切にしている。

九合小では、日本語の初期指導は、バイリンガル教員が担当している。バイリンガル教員が不在の時は、「学校生活のためのやまのぼり」や多文化教育について研究している機関の教材を活用している。一人の指導者が複数児童を指導する場合、児童同士の教え合いもよく行う。異なる進度、教科の児童を同時に指導する時には、特に練習問題などを用意している。

また、音読はとても大切だと考えているので、ある程度日本語学習が進んでいけば、理解に差があっても、国語の教科書の「ルビ付き教材」を使い、「まる読み」などで音読を聞き合うようにしている。



Q 6 取り出し指導についてどのように判断しているか。

取り出し指導等の支援が必要かどうかは、保護者に入学当初や転入当初に希望を聞き、確認している。

取り出し指導については、児童の日本語の力や教科の理解度によって取り出し時間や指導内容を決めている。指導時間については、国際教室の指導者の指導可能時数を踏まえ、担任と相談して決めている。また、日本語の理解が十分でなくても、学習意欲が高く、自分なりの学習方法を確立している児童は、入り込み指導で補っている。

国際教室で学んだことは、学級で生かす必要がある。たとえ日本語が話せなくても、取り出しをしすぎないように、取り出し時間の上限設定（一日3時間以内）をしている。



Q 7 中学校へ進学する児童の各教科の指導はどのようにしているか。

中学校は教科担任制で、より専門的で多様な指導に移行することからも、集団の中での学びや友達の意見を聞き合うことを重視し、取り出しは減らしている。

習熟度別の学習の際には、外国籍児童の多いクラスに入り込み、他の児童とともに指導している。

進学を考え、「自分で学べる児童」に育てるため、タブレットを使って文章を読んだり、意味を確認したりできるように、その方法を伝え、実際に使えるよう練習している。放課後補習の時間の支援も大切にしている。